

オンライン・オンデマンドを用いた中医看護に関する研修会の実践報告

Practical Report on Workshops on Traditional Chinese Medicine Using Online and On-Demand

○江角伸吾^{1,6}, 大植崇^{2,6}, 呉小玉^{3,6}, 堀込由紀^{4,6}, 横山詞果^{5,6}

Shingo Esumi, Takashi Ohue, Xiaoyu Wu, Yuki Horigome, Fumika Yokoyama,

1 宮城大学, 2 兵庫大学, 3 京都光華女子大学, 4 群馬パース大学, 5 滋賀県立大学

6 日本国際看護学会 教育活動・研修委員会

Miyagi University, Hyogo University, Kyoto Koka Women's University, Gunma Paz University, University of Shiga Prefecture, Japanese Society for International Nursing, Committee for Education and Training

【背景・目的】 国際看護はユニバーサル社会に生じる多様な健康ニーズに対応していかなければならない。中医学では、人を中心とすることではなく、人間の自然生命を中心に、自然との調和で健康を守ることに重きを置いており、これは現在求められている国際看護にも通じることがあると考える。そこで、国際看護学会教育活動・研修委員会では、2021年度西日本研修会として、中医看護を題材に「人と自然のホリスティックな視点」を学び、異文化対応能力の向上を目的としたオンライン研修会を開催した。また、本研修会よりオンデマンド配信を取り入れた。本報告では、研修会の成果と課題について報告する。

【研修内容】 本研修会は、「With コロナ時代における中医看護のホリスティックな視点で考える異文化対応能力」をテーマとし、2部形式で実施した。

第1部ではオンライン講義形式とし、コロナウイルス感染に対する中医学での考え方、中医看護学のホリスティック観からとらえた異文化対応について深めていく内容であった。

第2部では、オンラインワークショップの形式とし、事前に配布したチェックシートを用いて体質自己診断を体験した。実施した自己体質診断結果に基づいて、体質の特徴や体質に応じた養生方法を学んだ。また、体質の個性から同じ国の出身でも情緒反応の違いがあることで、異文化について触れ、本研修会の目的の理解を深めた。所要時間は、講義が2時間、ワークショップが1時間であった。

評価方法として、実施評価、企画評価、結果評価の視点で行った。企画評価及び結果評価については、オンライン研修会終了後に実施したwebアンケートを用いた。研修全体が企画評価としての第1部の講義に関する設問1問、第2部ワークショップに関する設問1問、研修全体としての設問2問の計4問からなり、5件法で回答を得た。さらに、研修会における意見や感想の自由記述欄および本研修会を知った媒体について複数回答の質問を設けた。

倫理的配慮として、研修参加者へは、アンケートへの協力は任意であり、匿名性を確保すること、アンケート結果はHP等で社会へ公表することを文書と口頭で説明し、同意を得ることができたアンケート結果のみ集計した。

【結果】 (実施評価) 研修会の参加者はリアルタイムの参加者は21名、オンデマンドでの参加者が16名の計39名が参加した。

アンケートの回答は10名から得た(回収率25.6%)。全回答

は実施してから2日以内のものであった。

〈企画評価〉第1部講義のテーマは7名(70.0%)が「適切」だったと回答し、3名(30.0%)が「やや適切」と回答した。研修会全体のテーマは、8名(80.0%)が「適切」だったと回答し、2名(20.0%)が「やや適切」と回答した。

第2部ワークショップ:ワークショップの長さは、8名(80.0%)が「適切」と回答し、「長い」と「やや短い」と回答したものが、1名ずつ(10.0%)であった。また、研修会全体の長さについては、8名(80.0%)が「適切」だったと回答し、「やや長い」と「やや短い」と回答したものが、1名ずつ(10.0%)であった。

〈結果評価〉内容については、自由記載にて「分かりやすかったです」「2回に分けても良い内容であった。とても貴重な内容であった」「計算の説明は皆で討論できて楽しかった」等の肯定的な意見が見られた。一方で、「初めて聞く内容が多く、理解が追いつかない部分があった」との意見も見られた。

異文化対応能力の向上については、「異文化看護の概念を伝える手がかりに使いそう」「孔子の考えなども看護に繋がっていることがわかって、学生の知っている知識を看護教育に活かせる」等の肯定的な意見が見られた。

【考察】 企画評価については、本研修の全体のテーマについては、適切であったと考える。ワークショップの時間は、適切と答えた人が8割以上であったが、オンラインでのワークショップの時間バランスについては今後検討していく必要がある。

結果評価については、中医看護についての関心が高い参加者が多数いることも分かったこと、中医看護について初めて聞く人もいるため、今回の研修では、理解が追いつかなかった人のために、今後も中医看護のテーマで研修会を開催することも検討したいと考える。

最後に、実施評価の面から、オンデマンド配信については、新規参加者を獲得することにつながる。一方で、オンデマンド配信を視聴した人の意見・感想については、本アンケートの回答が実施から2日以内に集中していることから、本内容には含まれていない可能性が高い。今後も、オンデマンド配信の評価をしていく必要がある。

なお、本報告は日本国際看護学会2021年度西・東日本研修会報告書に加筆修正を加えたものである。また、本活動報告における利益相反は存在しない。